

福島第一原子力発電所におけるガレキ等の管理について

1. ガレキ等の一時保管状況

- ▶ 約 34,000m³回収。うち、約 6,000m³は容器に収納。(2/9 時点で約 950 個)
- ▶ ガレキ等の一時保管エリアへの進入路は区画を行い、「関係者以外がむやみに立ち入らないよう制限をする」旨を表示。
- ▶ ガレキ等は表面線量率を目安に分別し、発電所敷地内の空間線量率を踏まえ、周囲への汚染拡大の影響の恐れのあるものについては飛散抑制対策を実施。
 - ▶ 1mSv/h を超えるもの⇒ 容器及び建屋に収納。
 - ▶ 1mSv/h 以下で 100 μ Sv/h を超えるもの ⇒ シートで養生。
 - ▶ 3, 4号機原子炉建屋上部瓦礫撤去に関する工事で発生し、100 μ Sv/h を超えるもの⇒ 容器及びテントに収納。

2. ガレキ等の敷地境界線量低減対策検討状況

- ▶ 敷地境界線量の低減対策として、土や土壌等による遮へい対策を施した一時保管施設を設置することとしたため、概要を以下に示す。

【覆土式一時保管施設の概要】

- ◇ 上部に覆土（遮へい用）することにより、ガレキ等による放射線影響を低減
- ◇ 底部、法面部、上部に遮水シートを施すことにより飛散抑制、地下水汚染を防止
- ◇ 貯蔵容量：4000m³/箇所、設置数：2箇所、4月中旬から運用開始予定

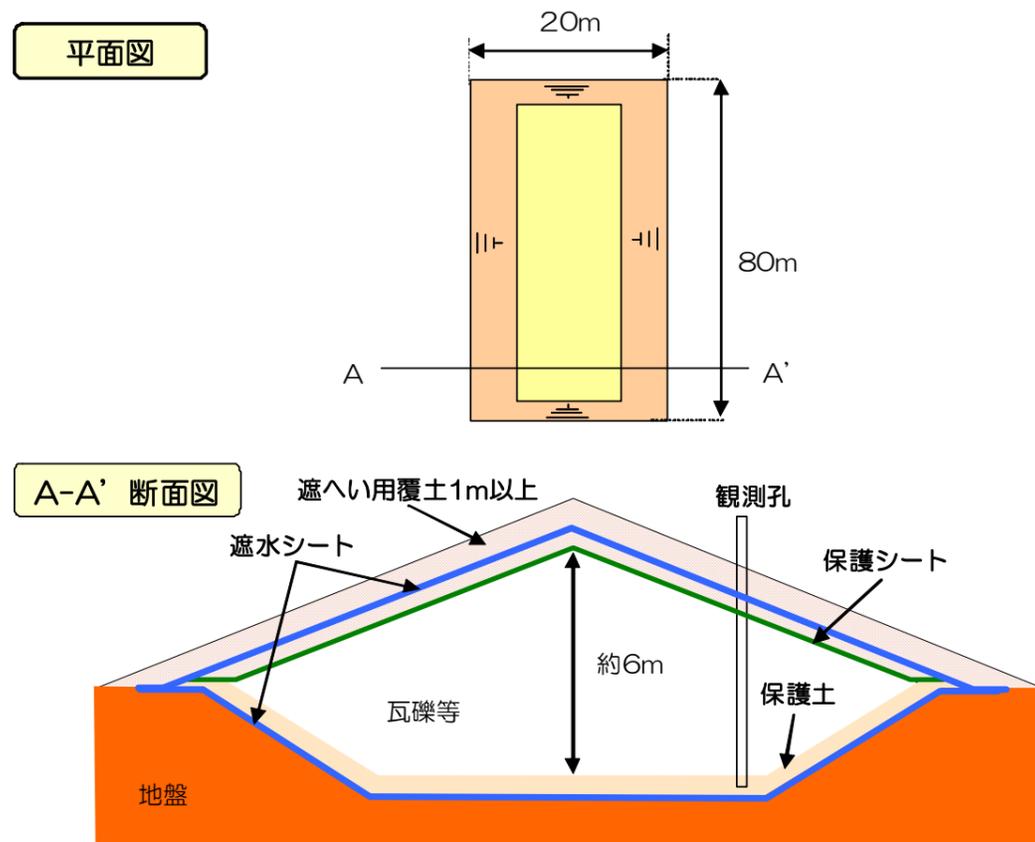


図1 覆土式一時保管施設の概略図

保管場所	種類	保管方法	保管量 [※] (H24.2.9時点)	エリア占有率 (H24.2.9時点)
固体廃棄物貯蔵庫	コンクリート、金属	容器	400 個	44%
A：敷地北側	コンクリート、金属	仮設保管設備	8,000 m ³	72%
B：敷地北側	コンクリート、金属	容器	450 個	98%
C：敷地北側	コンクリート、金属	屋外集積	16,000 m ³	49%
D：敷地北側	コンクリート、金属	屋外集積	2,000 m ³	56%
E：敷地北側	コンクリート、金属	屋外集積	1,000 m ³	40%
F：敷地北側	コンクリート、金属	容器	100 個	100%
合計（コンクリート、金属）			34,000 m ³	56%
G：敷地北側	伐採木	屋外集積	16,000 m ³	77%
H：敷地北側	伐採木	屋外集積	16,000 m ³	88%
I：敷地北側	伐採木	屋外集積	11,000 m ³	100%
J：敷地南側	伐採木	屋外集積	12,000 m ³	77%
K：敷地南側	伐採木	屋外集積	5,000 m ³	100%
合計（伐採木）			59,000 m ³	85%

※ 容器は10個未満、容積は1,000m³を四捨五入



図2 事故収束作業に伴い発生したガレキ・伐採木の管理状況